

第8回 人と自然：環境思想セミナー

棲む

建築と自然の 歴史的関係

2008年2月22日(金)
15:00～17:00

主催：総合地球環境学研究所・プロジェクト「農業が環境を破壊するとき」

講師：馬場徹氏（建築家・建築商会代表）

会場：総合地球環境学研究所 講演室

* 烏丸線「国際会館駅」より京都バス40系統にて「地球研前」下車（約10分）

申込不要・聴講無料

棲む — 建築と自然の歴史的関係

今回は、みずから町家暮らしを実践しつつ、伝統的空間の現代性を問うてこられた建築家の馬場徹氏(建築商会)をお招きし、建築における人と自然との関わりについて考えます。

自然とどうつき合うか、しかも時代にあったかたちでそれをどう表現するか模索するのは、建築の世界における永遠のテーマです。なかでも、「庭屋一如(ていおくいちによ)」たることに本質をもつともいわれる日本の伝統建築においては、自然と建築との相関性・連続性が何よりも重視されてきました。日本の風土気候は一年を通して変化に富んでいることもあり、これとどうつき合うかが、建築物を構想するうえで大事な要素としてあったことは想像に難しくありません。しかし、自然に対する捉え方の違いを踏まえて整理すると、時代ごとに異なる潮流を見いだすことができます。今回は、自然に対する思想の歴史的変遷と、それに呼応するように変化してきた建築と自然の関係を、いくつかの事例を通して見ていきます。

人と自然との相関性を、わたしたちの身体、感覚、記憶、経験、そして生活に根ざした多様なありさまにおいてうかがい知ることのできるよい機会かと思えます。多くの方のご参加をお待ちいたしております。



宇佐神宮 神池 (撮影:馬場徹氏)

- 自然信仰—信仰の対象としての自然
- 彼方への憧憬—
- 方位—南が好きな日本人
- 矮小化する庭—庭の役割の変化
- 枯山水の果たした役割—目線とヒエラルキー
- 市中山居—茶庭の出現
- 風通しの飽くなき追求—装置としての建築
- 季節を愉しむ—境界と建具
- 陰翳礼讃—住まいの濃淡
- 折り畳む—時間と機能の圧縮
- 白木の文化—清めの文化
- 日本人の遺伝子

【講師】馬場徹 (BABA Toru)

1968年横浜市生まれ。京都大学工学部(建築学科)卒業。同大学院修士課程修了後、一級建築士事務所・建築少年を共同設立。98年同博士課程単位取得退学。99年建築少年解散、一級建築士事務所・建築商会を設立。設計活動のほか、現在は綾部市まちづくりアドバイザー、岩倉実相院アドバイザーを務めるなど幅広く活躍。05年SDレビュー入選。06年インテリアプランニング(IP)賞入選。主な作品に、ア・ウム(飲食店舗及び住宅、京都)、守山の家(町屋改修・個人住宅、守山)、綾部市記念館(里山研修施設、綾部)、グランドプリンス京都/西陣スイート(ホテル改装、京都)など。『建築マップ京都』(共著、TOTO出版)、『すまいるん』(共著、筑摩書房)などの著作のほか、建築誌を中心に執筆・対談も多数。

会場:総合地球環境学研究所 講演室

(京都市北区上賀茂本山475-4)

※烏丸線「国際会館駅」より京都バス40系統にて「地球研前」下車(約10分)

※アクセスマップは地球研公式サイト (<http://www.chikyu.ac.jp>)をご参考になさってください。

※セミナー終了後、懇親会をひらく予定です。

人と自然：環境思想セミナー 今後の予定

4月24日(木) 「思想としての茶の湯:別なるライフスタイルをもとめて」(仮題)

熊倉功夫氏(国立民族学博物館名誉教授・林原美術館館長)

5月23日(金) 「美学の沈黙:‘エコロジカル’な美術史はあるか」(仮題)

グレゴリー・レヴィン氏(カリフォルニア大学バークレー校准教授)

6月13日(金) 「守・破・離:やきものの現在と自然」(仮題)

十五代 樂吉左衛門氏(陶芸家・樂美術館館長)

※予定は変更になる可能性があります。

■主催:大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 総合地球環境学研究所
プロジェクト2-5FR「農業が環境を破壊するとき—ユーラシア農耕史と環境—」
プロジェクトホームページ <http://www.chikyu.ac.jp/sato-project/>

■お問い合わせ セミナー企画担当:鞍田崇(地球研 研究員) 075-707-2386 kurata@chikyu.ac.jp